



# 環境経営レポート 2019年度版

## — 目次 —

1. 組織概要	・・・	3
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	・・・	4
3. 環境経営方針	・・・	5
4. 環境経営目標	・・・	6
5. 環境経営活動	・・・	11
6. 環境経営目標の実績	・・・	14
7. 環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容	・・・	15
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	・・・	22
9. 代表者による全体評価と見直しの記録	・・・	23

## 第1章 組織概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等）

### （1）事業所名及び代表者名

株式会社東洋精機製作所 代表取締役社長 秋山 秀雄

### （2）所在地

本社CSセンター 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4

東京工場（東京都北区）



舟渡サポートセンター  
（東京都板橋区）



大阪支店（大阪府吹田市）



名古屋支店  
（名古屋市東区）



本社CS（東京都北区）



### (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

役職	部署	担当者
環境管理責任者	品質保証室	室井 一男
事務局	管理部	笹部 正雄
	品質保証室	溝口 義浩、根岸 靖博、横山 勝

連絡先 : TEL 03-5915-5013 FAX 03-5915-5014 (品質保証室)  
TEL 03-3916-8188 FAX 03-3916-8313 (管理部)

(4) 事業内容 : 材料評価試験装置の開発・設計・製造・販売・修理

(5) 事業規模

[製品出荷実績] : 960台 (2019年度)

[従業員数] : 152人

## 第2章 対象範囲 (認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日

### (1) 対象範囲

対象事業所

- 本社CS センター 〒114-8557 東京都北区滝野川5-15-4
- 東京工場 〒115-0051 東京都北区浮間5-4-23
- 舟渡サポートセンター 〒174-0041 東京都板橋区舟渡1-2-6
- 大阪支店 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町5-3 (豊田ビル)
- 名古屋支店 〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵3-15-31 (千種ビル)

### (2) レポートの対象期間及び発行日

- ・対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日
- ・発行日 2020年7月28日

### 第3章 環境経営方針（基本理念と環境活動方針）

認証・登録番号： 0000165

（2005年4月取得）

#### 基本理念

当社は、地球環境問題が人類共通の重要課題との認識のもとに、全社をあげて環境との共生・調和に配慮した事業活動を自主的・積極的に推進し、環境負荷削減に向けて継続的改善に努めます。

地域の発展に協力して、地域社会との共生を図ります。また良き企業市民として社会貢献活動を行います。

#### 環境活動指針

当社は、材料試験機・測定機器の設計・製造・修理などの事業活動を展開する中で、環境に対する「基本理念」を達成するために、一人ひとりが法を遵守し、モチベーションを高め、実効性のある環境マネジメント活動を全社で実践致します。

- ・製品の環境負荷の低減化に一層取り組みます。
- ・節電に努め、電気使用量の削減に取り組みます。
- ・ガソリン・水・梱包材など、使用する資源の削減に取り組みます。
- ・廃棄物の削減及び分別・リサイクル率の向上と、グリーン購入推進により資源の再利用に取り組みます。
- ・環境活動レポートを公表し、各階層との環境コミュニケーションを深めることに取り組みます。上記の環境経営方針・環境活動指針を全従業員に周知させ、環境経営目標を達成するよう推進いたします。

2019年4月25日制定

代表取締役社長 秋山 秀雄

## 第4章 環境経営目標

### 4. 1 2019年度環境経営目標と実績の対比表

#### 4. 1. 1 東京工場・舟渡サポートセンター・本社CSセンター

取組項目		2017年度実績	2019年度目標 2017年度比総量で 2%削減 (現状維持)	2019年度実績	増加・減少数 削減率 (増減)
購入電力削減	東工	263,658 kWh	258,385 kWh	264,202 kWh	5,817kWh増加 2.25%増
	舟渡	193,973 kWh	190,094 kWh	341,391 kWh	151,297kWh増加 79.59%増
	本社	79,134 kWh	77,551 kWh	73,498 kWh	4,053kWh減少 5.23%減
ガソリン使用量削減	東工	10,688 L	10,474 L	10,256 L	218L減少 2.08%減
	舟渡	1,161 L	1,138 L	1,893 L	755L増加 66.38%増
	本社	17,705 L	17,351 L	15,053 L	2,298L減少 13.24%減
一般廃棄物削減	東工	2,609 kg リサイクル率:86.4%	2,557 kg リサイクル率:88.4%	2,389 kg リサイクル率:84.0%	167kg減少 6.55%減 リサイクル率:4.4%減少
	舟渡	824 kg リサイクル率:82.4%	808 kg リサイクル率:84.4%	736 kg リサイクル率:82.9%	72kg減少 8.91%減 リサイクル率:1.5%減少
	本社	744 kg リサイクル率:74.0%	729 kg リサイクル率:76.0%	700 kg リサイクル率:74.8%	29kg減少 3.99%減 リサイクル率:1.2%減少
水使用量削減	東工	1,444 m <sup>3</sup>	1,415 m <sup>3</sup>	1,618 m <sup>3</sup>	203m <sup>3</sup> 増加 14.34%増
	舟渡	1,081 m <sup>3</sup>	1,059 m <sup>3</sup>	3,574 m <sup>3</sup>	2,515m <sup>3</sup> 増加 237.37%増
	本社	516 m <sup>3</sup>	506 m <sup>3</sup>	769 m <sup>3</sup>	263m <sup>3</sup> 増加 52.07%増
容器・梱包材使用量削減	---	---	5,453 kg	---	
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価	総トータルで 179ポイント達成	総トータルで 127ポイント達成	総トータルで 289ポイント達成	総トータルで 162ポイント増加 127.56%増	
②個別機種評価	環境配慮製品を 4機種	環境配慮製品を 3機種以上	環境配慮製品を 4機種設計完了	1機種増加	

※          は目標未達の項目である。

#### 4. 1. 2 大阪・名古屋支店

取組項目		2017年度実績	2019年度目標 2017年度比総量で 2%削減 (現状維持)	2019年度実績	増加・減少数 削減率(増減)
購入電力 削減	大阪	28,398 kWh	27,830 kWh	26,535 kWh	1,295kWh減少 4.65%減
	名古屋	14,551 kWh	14,260 kWh	15,756 kWh	1,496kWh増加 10.49%増
がソソ使用量 削減	大阪	9,640 L	9,447 L	10,065 L	618L増加 6.54%増
	名古屋	10,588 L	10,376 L	10,122 L	254L減少 2.45%減
一般廃棄物 削減	大阪	354 kg	347 kg	207 kg	140kg減少 40.33%減
	名古屋	714 kg	700 kg	676 kg	23kg減少 3.35%減
水使用量 削減	大阪	60 m <sup>3</sup>	59 m <sup>3</sup>	50 m <sup>3</sup>	9m <sup>3</sup> 減少 14.97%減
	名古屋				数値化できないため節水 取組課題を決め、その活 動を表記する。

#### 4. 1. 3 全社のCO<sub>2</sub>排出量

2019年度排出量（全社）：430,480kg-CO<sub>2</sub>

項目	使用量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	CO <sub>2</sub> 排出割合	CO <sub>2</sub> 排出量 地域別合計		
電力 (kWh)	東工 4月～12月	190,476	0.455	86,667	0.201	303,885	/
	東工 1月～3月	73,726	0.424	31,260	0.073		
	舟渡 4月～12月	271,932	0.455	123,729	0.287		
	舟渡 1月～3月	69,459	0.424	29,451	0.068		
	本社 4月～12月	52,101	0.455	23,706	0.055		
	本社 1月～3月	21,397	0.424	9,072	0.021		
	大阪	26,535	0.334	8,863	0.021	15,985	
	名古屋	15,756	0.452	7,122	0.017		
	合計	721,382	/	319,870	0.743		
ガソリン (L)	東工	10,256	2.32	23,794	0.055	63,109	/
	舟渡	1,893		4,392	0.010		
	本社	15,053		34,923	0.081		
	大阪	10,065		23,351	0.054	46,834	
	名古屋	10,122		23,483	0.055		
	合計	47,389		/	109,943		
LPG (kg)	東工	222.3	3.00	667	0.002	667	/
全社合計	/	/	430,480	1.000	/	/	

※本社、東京工場、舟渡サポートセンターは、1月から契約電力会社を変更しました。



## 4. 2 2020年度環境経営目標

### 4. 2. 1 東京工場・舟渡サポートセンター・本社CSセンター

取組項目		2017年度実績	2019年度実績	2020年度目標 2017年度比総量で 3%削減	2021～2023年度 中長期目標
二酸化炭素削減		323,700 kg-CO <sub>2</sub>	367,661 kg-CO <sub>2</sub>	313,989 kg-CO <sub>2</sub>	2020年度の結果より 決定予定
購入電力 削減	東工	263,658 kWh	264,202 kWh	255,748 kWh	
	舟渡	193,973 kWh	341,391 kWh	188,154 kWh	
	本社	79,134 kWh	73,498 kWh	76,760 kWh	
ガソリン使用量 削減	東工	10,688 L	10,256 L	10,367 L	
	舟渡	1,161 L	1,893 L	1,126 L	
	本社	17,705 L	15,053 L	17,174 L	
一般廃棄物 削減	東工	2,609 kg リサイクル率:86.4%	2,389 kg リサイクル率:84.0%	2,531 kg リサイクル率:89.4%	
	舟渡	824 kg リサイクル率:82.4%	736 kg リサイクル率:82.9%	799 kg リサイクル率:85.4%	
	本社	744 kg リサイクル率:74.0%	700 kg リサイクル率:74.8%	722 kg リサイクル率:77.0%	
水使用量 削減	東工	1,444 m <sup>3</sup>	1,618 m <sup>3</sup>	1,401 m <sup>3</sup>	
	舟渡	1,081 m <sup>3</sup>	3,574 m <sup>3</sup>	1,049 m <sup>3</sup>	
	本社	516 m <sup>3</sup>	769 m <sup>3</sup>	501 m <sup>3</sup>	
容器・梱包材使用量 削減		―― kg	5,453 kg	5,289 kg	
環境配慮製品の 開発・設計 ①全体評価		総トータルで 179ポイント達成	総トータルで 289ポイント達成	総トータルで 56ポイント達成	
②個別機種評価		環境配慮製品を 4機種	環境配慮製品を 4機種設計完了	環境配慮製品を 2機種以上	

大阪・名古屋支店

取組項目		2017年度実績	2019年度実績	2020年度目標 2017年度比総量で 3%削減	2021年度目標
二酸化炭素削減		68,020 kg-CO <sub>2</sub>	62,819 kg-CO <sub>2</sub>	65,979 kg-CO <sub>2</sub>	2020年度の結果より決定
購入電力削減	大阪	28,398 kWh	26,535 kWh	27,546 kWh	
	名古屋	14,551 kWh	15,756 kWh	14,114 kWh	
ガソリン使用量削減	大阪	9,640 L	10,065 L	9,351 L	
	名古屋	10,588 L	10,122 L	10,270 L	
一般廃棄物削減	大阪	354 kg	207 kg	343 kg	
	名古屋	714 kg	676 kg	693 kg	
水使用量削減	大阪	60 m <sup>3</sup>	50 m <sup>3</sup>	58 m <sup>3</sup>	
	名古屋				

備考

①2019年4月24日のエコアクション21全体会議により、2019年度の目標は2017年度総量比で2%削減としました。2020年度の目標に関しては、2017年度総量比で3%削減としています。(但し。容器・梱包材使用量削減は、2019年度に現状把握を行ったため、2019年度総量比で3%削減としています)

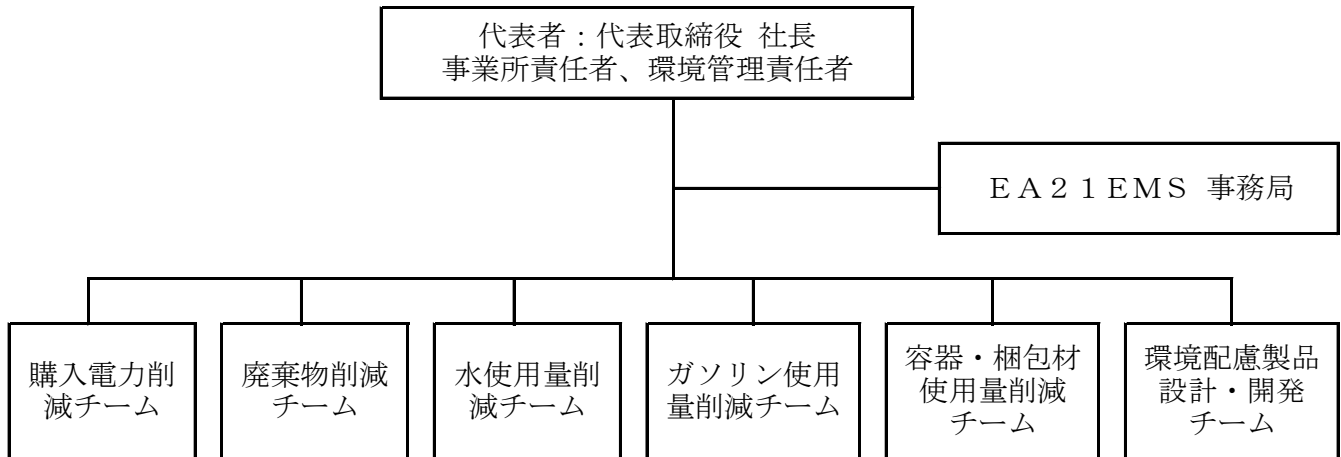
②名古屋支店の水使用量は、数値化できないので節水取組み課題を決めて、その活動内容を表示することとします。

③二酸化炭素削減は、「東京工場、舟渡サポートセンター、本社CSセンター」は「購入電力量、ガソリン使用量及びLPG使用量」、「大阪支店、名古屋支店」は「購入電力量及びガソリン使用量」より算出しました。

## 第5章 環境経営活動

### 5.1 組織体制について

当社の環境経営方針【基本理念】に基づき、環境管理責任者・事業所責任者・EA21EMS事務局及び活動チームが中心となって環境負荷削減活動を進めると共に、環境経営システムの定着及び環境に関して遵法及び継続的改善に取り組みました。



※各役割については、弊社「環境経営マニュアル」による

### 5.2 各活動チームの2019年度の実績

全社の環境経営目標を達成するために、事業所責任者及び環境管理責任者のもと、実質的な活動として目標項目毎に「活動チーム」を編成し、1/4期毎に活動内容のP. D. C. A進捗管理を行い、年度末に活動結果と評価をまとめています。各チームの主要取組内容は以下の通りです。

#### (1) 環境配慮製品設計・開発チームの取り組みについて

年度活動計画	活動内容
①今期対象製品を選定する。 ②構想設計時に環境ポイントを計画する。 (右記、「構想時ポイント」) ③計画したポイントに従って設計を行うと共に、更なるポイント獲得(向上)にも取り組む。 ④開発完了時に「最終獲得ポイント」の集計を行い、結果についてレビューする。 ⑤進捗の確認については、(右記)にて四半期毎に担当者が「実績」及び「進捗状況/是正策」を記入し、責任者によるレビュー(評価/指示)を行う。	構想時ポイント ・フラジールパーミヤメータ 構想時46ポイント ・新型摩擦測定機 構想時21ポイント ・脆化温度試験機 構想時72ポイント

## (2) 購入電力削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①空調管理： 必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにエアコンの調節を行い、不要な場所、不要な時期（4～6月・10～12月等）は電源OFF	6～9月（夏季）：基本28℃・12～3月（冬季）：19℃を目安に必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにする。エアコンの使用台数を減らし、夏季は設定温度28℃として、扇風機などの使用により冷気を廻す。 冬季は加湿器の使用により湿度を上げて、体感温度を上げる。ブラインドの調節を行い、エアコンの効率を上げる。	●夏季：クールビズ ●冬季：衣服で調整する ●エアコンの間引き運転実施
②照明管理：休憩時間及び使用していないエリアの消灯	休憩時間の消灯及び使用していないエリアの消灯。	●休憩時間の消灯確認 ●蛍光灯の削減（間引き）
③待機電力の削減：IT関連機器・加工機及び製品検査不使用時（無駄な電源ONを回避）	就業後の不使用PCモニタの電源OFF。加工作業・製品検査で長時間持ち場を離れる場合、加工機、製品の機能を損なわない範囲で電源を切る。	●終業後の終夜運転機以外の停止確認
④共同施設・設備の電源管理の徹底を図る：トイレ・エントランス・食堂・会議室・コンプレッサー・サイクル変換機・恒温恒湿室など。	●コンプレッサー・サイクル変換機の管理は管理者を決めて手順書を定め、機械室扉に掲示する。 ●こまめに消灯するように啓蒙	●各所消灯・終業後のコンプレッサー・サイクル変換機の機械室の確実な電源OFF確認
⑤使用電力の報告とポスターの掲示	室温照明管理ポスター作製及び使用電力目標年度比較グラフの掲示して啓蒙を図る	●室温証明管理ポスターを作成し掲示する、また使用電力の結果を掲示、目標到達状況を全社員へ通達する

## (3) 廃棄物削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①各フロアでゴミ廃出量の記録を取り、月の集計を掲示して目標達成の意識付けを図る。	エントランスに設置された「はかり」で担当者が質量を記録する。 週末に小集計と月末に全体の集計を行い、排出状況を毎月掲示する。	●担当者に適切なシールを貼るよう指導 ●ゴミ出しの手順書ポスターの掲示
②資源ゴミを一般廃棄ゴミに出さない様に分別監視し、リサイクル対象品と廃棄物の分別の徹底を図る。	一般廃棄物の分別を確認し、資源ゴミは資源回収用箱に入れさせるように指導を行う。	●分別をメール・朝礼などで啓蒙 ●ポスターの掲示
③資源ゴミ（ダンボール・コピー用紙・新聞・カタログなど）の引き取りを回収業者に依頼し、質量を測定する。	ダンボール保管場所が一杯になったら管理部に連絡し回収業者を呼ぶ。分類別に質量を測定し記録する。	●質量を記録する。
④リサイクルの種類を増やし、一般廃棄ゴミを削減する。	更にリサイクルできるものをピックアップし回収のルールを作成する。	●リーダー、メンバーが中心となり、書類リサイクルの啓蒙、朝礼での伝達
⑤産業廃棄物の処理を適切に行う。	4半期ごとにマニフェスト管理票を確認する。「産業廃棄物顧客引取品管理簿」で、排出内容と質量を記録する。	●半期ごとに適切に記録されていることを確認する。

#### (4) 容器・梱包材使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①梱包材の使用量の確認	梱包材の使用量の把握する。	●梱包材の使用量を記録する。 ●アルミケースの使用を啓蒙する。
②外部より持ち込まれる製品・部品に関して納品に使う通い箱の奨励を図る。	通い箱に変更できる購入品、定期荷物を特定して奨励する。	●啓蒙活動を行う。
③梱包材のリサイクルの徹底	●ポスターにて「梱包材のリサイクル」を徹底させる。 ●使用部署への周知徹底	●ポスターの掲示 ●使用部署への啓蒙

#### (5) ガソリン使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①車をできる限り使用しない	車での長距離移動をできる限り行わず、公共の交通機関を利用する。都内の公共交通機関で済む場合は、可能な限り使用しない。	●朝礼にてアナウンス
②空気圧をチェック	給油時に、タイヤの空気圧をチェックする。	●自動車運行日報にチェック欄を設け、空気圧チェック実施を管理する。
③車の荷物をできる限り軽くする。	荷台に不要な物を置かない（降ろす）。	●5S活動にて実行
④ガソリン使用量削減のための啓蒙を行う。	ポスター、回覧、朝礼にてエコ運転を啓蒙する。	●エコドライブ10のすすめ掲示 ●安全ドライブ5箇条掲示 ●エコ安全ドライブチャレンジ実施

#### (6) 水使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	活動内容
①洗面所止水栓の調節	必要最低限の流量に調節する。 (事例：ハンドル全開時流量蛇口全開で約2～30/分に調節（手洗いで適切な流量約40/分）)	●随時、流量を確認し、調整を行う。
②器具のチェック	水漏れがないか各器具をチェックし、改善を図る。	●蛇口の点検、水漏れ箇所の点検
③垂れ流しの防止	水道の垂れ流しの防止を徹底する。ポスターにて「節水」の啓蒙を行う。	●ポスターの掲示。
④毎月、水道メータを記録する。その際、メータの増減から明らかに異常であると判断した場合は調査する。	毎月の水道使用量を記録し、問題があった時は原因究明及び適宜チェックを実施する。	●蛇口の漏れ点検など。

## (7) グリーン購入取組チームの取組について

年度活動計画	具体的展開
グリーン購入品の推進。	社内消耗品においてグリーン購入を推進、その記録を残す。

## 第6章 環境経営目標の実績

### 6.1 環境負荷抽出結果報告

全社（東京工場、舟渡サポートセンター、本社CSセンター及び大阪支店・名古屋支店）における二酸化炭素排出量、廃棄物最終処分量、総排水量、及び資源（製品の原材料など）利用量の過去2年間の実績と今年度の結果は下記の通りです。

項目		単位	2017年度	2018年度	2019年度
温室効果ガス 排出量	二酸化 炭素	kg-CO <sub>2</sub>	391,720	386,601	430,480
物質使用量	資源 投入量	t	116 (96tは主力製品生産量)	101 (95tは主力製品生産量)	101 (95tは主力製品生産量)
水資源投入量	上水道 使用量	m <sup>3</sup>	3,101 (名古屋支店を除く)	3,895 (名古屋支店を除く)	6,011 (名古屋支店を除く)
総生産販売量	主力製品販 売総重量	t	96	95	95
	容器・梱包 材使用量	t	#VALUE!	3.3	5.5
廃棄物量 (一般廃棄物)	最終 処分量	t	5.25	5.00	4.71
廃棄物量 (産業廃棄物)		t	18.8 <small>(東京工場及び東京工場舟渡サポ ートセンターのみ)</small>	28.8 <small>(東京工場及び東京工場舟渡サポ ートセンターのみ)</small>	21.7 <small>(東京工場及び東京工場舟渡サポ ートセンターのみ)</small>
水資源投入量	下水道 使用量	m <sup>3</sup>	3,101 (名古屋支店を除く)	3,895 (名古屋支店を除く)	6,011 (名古屋支店を除く)

- 物資使用量は、総製品販売量に紙購入量を加算した値である。
- 容器・包装は、段ボール・エアパッキン・テープ等で、製品出荷時に使用するものである。
- 廃棄物（一般廃棄物）最終処分量は、可燃ごみ、不燃ごみ、金属加工屑、廃プラスチックなどを合計した値である。
- 水資源投入量と総排水量は、同じとした。

## 第7章 環境経営活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### 7.1 各チームの年度末評価と事業所責任者の評価

#### 環境配慮製品設計・開発チーム

2019年度は、4製品が環境配慮製品として製品化されました。

製品名： ①フラジールパーミヤメータ

全体で96ポイント達成

②新型摩擦測定器

全体で168ポイント達成

③Φ30コニカル押出機

全体で10ポイント達成

④コールドカットペレタイザー

全体で15ポイント達成

#### ①フラジールパーミヤメータ

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
重量削減	B (主力26製品以外の総合カタログ掲載製品)	6~10%削減目標	<u>42ポイント</u> Bクラス(2点)×21ポイント	105kgから55kgへ削減
容積削減		31%以上削減目標	<u>14ポイント</u> Bクラス(2点)×7ポイント	W700×D750×H1050をW600×D500×H1160へ削減
グリーン購入		構成部品3個グリーン購入対応	<u>40ポイント</u> Bクラス(2点)×20ポイント	アルミフレーム使用、標準部品(クランプ、プリンター)削減

#### ②新型摩擦測定器

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
電力量削減	A (主力26製品)	26~30%削減目標	<u>54ポイント</u> Aクラス(3点)×18ポイント	3Aから2.2Aへ削減
重量削減		31%以上削減目標	<u>63ポイント</u> Aクラス(3点)×21ポイント	33.5kgから20kgへ削減
容積削減		31%以上削減目標	<u>21ポイント</u> Aクラス(3点)×7ポイント	W700×D350×H320をW540×D350×H280へ削減
グリーン購入		構成部品1個グリーン購入対応	<u>30ポイント</u> Aクラス(3点)×10ポイント	アルミフレーム使用



### ③Φ30コニカル押出機

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
グリーン購入	C (総合カタログ掲載製品以外)	構成部品 1個グリーン購入対応	<u>10ポイント</u>  Cクラス(1点)×10ポイント	SUSフレーム使用

### ④コールドカットペレタイザー

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
容積削減	C (総合カタログ掲載製品以外)	5%以下削減目標	<u>5ポイント</u>  Cクラス(1点)×5ポイント	25%削減
グリーン購入		構成部品 1個グリーン購入対応	<u>10ポイント</u>  Cクラス(1点)×10ポイント	アルミフレーム使用



#### 摩擦測定機

用途) 本装置は試験片を相手材料の上を滑らせてプラスチックフィルムや、紙等の滑り摩擦による静摩擦係数及び動摩擦係数の測定をする装置です。

テーブルに取り付けられた試料とスレッドに巻き付けられた試料との間に生じる摩擦抵抗をロードセル(荷重変換器)で検出し、演算後摩擦係数として表示されます。

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
環境配慮製品	合計ポイント : 289ポイント 進捗度 : 208%  予定外でコールドカットペレタイザーで15ポイント獲得。	4/4期の環境ポイントは、15ポイントでしたが、年間で208%は評価できます。環境ポイントを観測するだけでなく、開発で環境ポイントを増やす取り組みを行って下さい。



## 東京工場

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	目標1-3累積(75.565kw)に対し、74.794kwで1.0%の減少であったが、HDT試験装置等のヒーターを使用する製品検査(夜間連続運転)がある場合、消費電力が増加する傾向があることが解ったため、注視していく。	管理責任者の報告通り、3月2台のコンプレッサーの内1台が故障し、限られた装置のみ終夜運転を行ったことが電力消費を抑えた。1年を通してよく管理していました。 消費電力を抑えるには、地道な取り組みが必要です。当たり前ではありますが、使っていない電気はこまめに消す様に啓蒙して下さい。
廃棄物削減	去年の1月の1F不燃と比べて今年が60kg程低い。去年が何を捨てたかは不明。逆に3月の1F不燃は今年が50kg程多い。1Fでのラボサンプルテスト、社内立会、出荷等で出たサンプル廃棄分があり、コロナの影響で社内立会の代りに預かりサンプルが多かったと思われる	不燃ごみが多い原因の考え方は、状況からすると正しいと思える。 ごみの分別の指摘は相変わらず聞きます。引き続き啓蒙をお願いします。
水使用量削減	HDT及び水冷式冷凍機製品の出荷検査が少な目のため水の使用量も減少したと考えられる。 工場一階給湯器は修理完了。	4/4期は出荷製品が一年で一番多かったですが、管理責任者の言う通り水道水を使う製品が少なかったことにより水の使用量をおさえることが出来ました。 水使用量削減はこまめな取り組みの上に成り立っています。毎日のちょっとした節水への意識が成果を生み出します。
ガソリン使用量削減	本年度目標に対して2%の削減ができました。 全課員の走行距離、エコ運転の意識が実ったものと考えられます。	2018年度と比較すると少しだが削減が実現されており評価できる。 2019年度は全社的に事故修理が多かったので、ガソリン削減と安全運転をセットで啓蒙して下さい。

## 舟渡サポートセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	目標に対し1月33.4%、2月39.54%、3月71.19%オーバー、原因は2019年度4Qは2017年度に比べ出荷数がギヤオープン25%増（16台→20台）、Ci4400は140%増（5台→12台）となり、約23,215kW余分に消費したと思われる。増加分との差分1,493kWは暖冬によりエアコンでの消費が抑えられたものと推測する。	電力使用量は減少方向にあり、電力削減の取組は実を結んでいるように思える。工場が営む生産量があがれば、それに比例して電力消費量も上がる。目標や評価基準の見直しを検討してはいかがでしょうか。
廃棄物削減	廃棄物削減は約9%削減できた。1/10, 3/4に回収日案内と分別ルールをメールにて啓蒙。1/17, 3/6の古紙回収時に資源ごみを測定。3月の一般ごみ増加は年度内出荷が増加したことが要因と推定されます。分別にミスがあった時は、都度朝礼にて啓蒙。	売上が増加している中で、削減目標を達成できたことは取り組みの成果が出ている。環境意識を高め、更なる削減を目指してください。
水使用量削減	アトラスウエザオメータの検証（終日運転）は、1台継続中。4/4期は昨年度に近い数値に戻った。※2020年2月温水洗浄便座を2台新設。年間を通じてアトラスウエザオメータの検証があった為、前年との比較をするのは困難な状態で、337%と厳しい結果となった。グラフの推移は、電力チームとほぼ同じ動きをしていた。	評価以前に比べ水使用量は減ったが、18年度実績より増加しており取組の効果が見られない。実情に合った目標を設定し、節水意識改革が必要と思われる。
ガソリン使用量削減	2017年度より7320増加(166%)昨年度より2560増加(116%)という結果となった。増加理由として ①旧サーモ外注先(往復で約100km)へ去年より7回増加 ②緊急対応品(処理等)の為外注先まわりを連日行っている事があります。 来期以降の削減方法として ②に関して”本当に緊急か判断し”走行回数(=ガソリン)を減らしていこうと思います。	取組の遂行意識は高まっている。燃費においては季節による変動はあるものの安定している。ガソリン使用量は走行距離と燃費で決定されるため、走行距離を削減する工夫が必要。
容器・梱包材使用量削減	4/4期に関しては3/4期と出荷量は変わらないが購入量を減らす事が出来たので今後も継続して行きたい。尚、今期は購入量と出荷量の二乗平均値を把握中の為、来期からはこの数値を基に目標を置き削減に努めます。	未実施の活度が無いように頑張りたい。二乗平均値は変動幅が少なく指標として使っていきましょう。

## 本社CSセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	<p>目標使用電力量 77,551kwh 1月～3月電力使用量 73,498kWh 達成率：95% 4/4期目標達成。暖房を稼働しない日/時間帯を設定。</p>	<p>設定温度調整の取組みについて評価できません。引き続き継続して下さい。 来期も啓蒙活動に力を入れて、目標達成に向け常に継続実践して下さい。</p>
廃棄物削減	<p>各課員の廃棄物に対する認識が定着し目標達成する事が出来ました。</p>	<p>啓蒙活動に力を入れた結果が、実ったのでしょう。 来期も展開活動を維持して継続して下さい。</p>
水使用量削減	<p>使用量は依然増加傾向。年末の大掃除（社有車清掃等）が多少なり影響あるかとは思いますが、他の原因については、目視できる範囲での水漏れも無く、業者の点検でも原因がつかめなかった為、今後の対策は事業所責任者と相談していきたい。</p>	<p>引き続き、原因を早急に見つける事が大事。 事業所責任者と管理部と今後の対応について相談して下さい。</p>
ガソリン使用量削減	<p>前期比87%で目標達成。車両更新一巡し、10万km以上の車両残り1台と出来たことが大幅改善の要因と推測。来期は残1台の更新も視野に燃費ばらつき改善を注視。</p>	<p>燃費の悪化要因を推測し、適切な処理をした結果が実ったように思えます。 来期も、安全運転を推奨し、結果としてエコ運転につながっていくことを強く啓蒙して下さい。</p>

## 大阪支店

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	暖冬の影響もあったと思いますが、空調管理は意識高く出来ていたと思います。	暖冬の影響もあったと思います。又、体感温度でスイッチの入り切りを徹底した結果です。 節電はまだまだ出来ます。照明も人のいないところは消す取組をしていきます。
廃棄物削減	リサイクルの意識が高まり、一般ごみ削減が実現出来た結果、順調に推移致しました。	ゴミの削減についても一定の効果が見れています。 更にゴミを減らす、リサイクル出来るものはリサイクルするようにしてください。
水使用量削減	節水が取組めた結果、達成することができました。	順調に推移しており、問題ありません。 必要な時を除き、節水に努めてください。
ガソリン使用量削減	コロナウイルスの影響で電車移動が車移動に変わったケースが幾らかあり、ガソリン使用料が増えてしまいました。	公共交通機関が使えないことから、致し方ないと思います。 引き続き安全運転に努めるようにしてください。

## 名古屋支店

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	事務所の空調設定温度が通年よりも高く設定されていたのが原因で、通年よりも電力量が多くなってしまい、月次・累計ともに未達成となってしまいました。	設定温度の認識が甘かったため、達成出来ませんでした。 温度設定を気を付ける事を指示しました。
廃棄物削減	啓蒙活動の効果もあり、単月・累計ともに達成。	実際の分別・チェックも出来ており、問題ございません。 このままの状態継続下さい。
水使用量削減	引き続き節水に心がける。	引き続き啓蒙する。
ガソリン使用量削減	アイドリングを減らしたり、暖房の設定温度についてエコ活動を再度啓蒙を行った結果、年度末累積目標の達成が出来ました。	活動の内容によって変動はあるが、効率化を進めており評価出来ます。 エコ運転を務めて継続下さい。

## 7.2 2020年度以降の環境経営目標の設定と展開について

### (1) 2020年度以降の「環境経営目標」の設定

2020年5月15日にエコ活動メンバーの全体会議を予定していたが、新型コロナウイルスにより緊急事態宣言の為、会議の予定は中止し、WA21事務局にて2020年度の目標設定について提案、「容器梱包材使用量削減」及び「環境配慮製品設計・開発」以外は、2017年度の実績値をベースとして、-3%の削減目標にて活動することを確認した。

### (2) 環境配慮製品開発の目標設定

環境配慮製品設計・開発は目標を56ポイントと設定し、当社の環境へのアピールポイントとして継続して取り組むこととする。

## 7.3 その他の環境活動

### (1) 教育・訓練の実施

内部監査員・従業員への教育・訓練の実施を行う。

全社員へ啓蒙を図るため、“エコアクション21（機関誌）”をEA21事務局からの発行を計画していたが、実施しなかったため、今年度（2020年度）からは各チームリーダーより問題点等を聞き取りをし、それを基に機関紙を作成・発行していきたい。

### ● 教育訓練計画表及び実施記録（2019年4月～2020年3月）

月	内容	対象	講師	実施記録
4	チーム活動の前年度総括 年度環境経営活動決定会議（今年度計画）	各チーム 内部監査員	— —	活動記録 議事録
5	緊急事態対応訓練 内部環境監査（東工・舟渡SC）クリーンアップ活動 内部環境監査（本社CSセンター・両支店）クリーンアップ活動	対象者 全社員 全社員	事務局 — —	活動記録 報告書 報告書
6	特になし	—	—	—
7	チーム活動の進捗管理(1/4期) マネジメントレビュー議事録確認 定期審査	各チーム サンビ会 全社員	— — —	活動記録 議事録 報告書
8	特になし	—	—	—
9	特になし	—	—	—
10	チーム活動の進捗管理(2/4期)	各チーム	—	活動記録
11	特になし	—	—	—
12	更新審査時指摘事項対策全体会議	全チーム員	—	議事録
1	チーム活動の進捗管理(3/4期)	各チーム	—	活動記録
2	特になし	—	—	—
3	特になし	—	—	—

## (2) クリーンアップ活動

事業所周辺地域とのコミュニケーションの一環として、クリーンアップ活動（通勤経路及び事業所周辺のゴミ拾い）を本社CS及び東京工場・舟渡サポートセンターにて年に1回有志で実施しています。

2019年度の実施報告：

日時	場所	有志参加者数
2019年6月12日(水) 17：15～18：00	東京工場及び舟渡S C 周辺清掃	約70名
2019年5月29日(水) 17：15～18：00	本社C Sセンター周辺清掃	約30名

『地域の環境を美化する地域社会への貢献は、環境活動の第一歩』と考え、今後も継続していきます。



東京工場周辺清掃



本社CSセンター周辺清掃

## 第8章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

### 8.1 「環境法規制要求事項一覧及び遵守評価表」による自己チェック結果

当社が該当する、「環境基本法」から「労働安全衛生法」までの19法令の要求事項に関して、2019年3月30日にEMS事務局によりチェックを実施した結果、抵触する事項は0件であり、早急な改善を要する事項も0件でありました。また、緊急事態の発生も今年度も0件でした。

東京都知事宛に廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の3第6項の規定に基づき、2020年4月7日に「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を提出しました。

フロン排出抑制法（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）により、業務用冷凍空調機器（当社ではエアコンのみ）については3ヶ月に1回チェックを行っています。

また、圧縮機電動機定格出力7.5kW以上50kW未満のエアコンについては業者による点検を3年に1度実施しています。



## 8.2 関連機関等からの外部チェック結果

当社が該当する、省資源と廃棄物、省エネと気候変動、自然保護等の各法規制等に抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関等からはありませんでした。

当社はトップダウンにより、**遵法精神に基づく環境経営活動及び企業活動を全従業員に強く意識付けています。**

## 第9章 代表者による全体評価と見直しの結果

6月5日の「サンビ会」(全役員・部長・次長の参加)において、活動結果の報告を実施しました。その評価内容は以下の通りです。

### 9.1 環境活動報告及び見直しに関して

#### ① 内部環境監査・外部審査の結果及びフォローアップ状況

- 1) 内部監査は新型コロナウイルスの影響により、当初の予定していた日程から延期、2020年6月17日に実施予定。指摘事項、観察事項が出された際は、適切に対応予定。
- 2) 外部(更新)審査は2019年8月22日～23日に実施、更新された。また、指示事項・推奨事項は適切に管理対応している。

#### ② 社外コミュニケーションの取り組み状況(苦情を含む)

- 1) 事業所別にクリーンアップ活動(周辺道路のゴミ拾い)を実施。
- 2) 近隣の住民の方から当社ホームページに、本社CSセンターの屋外喫煙所からのたばこの煙に関し、迷惑してる、とのお話を受け、該当喫煙所の撤去を行った。

#### ③ 組織の環境パフォーマンス(教育訓練・社内啓蒙または目立った取り組み)

- 1) 今期、教育訓練が実施できなかったため、来期はチーム員からE A 2 1活動時に生じる問題点等を聞き取り、それを課題に教育訓練を行う予定
- 2) 社内啓蒙では、活動チームによるポスターでの啓蒙を実施。

#### ④ 環境経営方針・環境経営目標及び取り組み状況の把握と評価

事業所責任者、サンビ会による取り組み及びその評価に関しては、特段問題はない。

#### ⑤ 是正処置及び予防処置の状況(緊急事態への準備含む)

- 1) 是正処置： ①の内容の通り、内部監査・外部審査の対応は管理されている。
- 2) 予防処置： 予想される新たな環境負荷や現状から大きな環境負荷に繋がるような事象はない。
- 3) 緊急事態の対応につきましては、19年8月27日に舟渡サポートセンターにて、消防訓練を実施。

## ⑥ 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ（アウトプット事項）

1) 環境法令の監視体制を構築すること。

⇒監視体制を構築、フォーマットを作成見直しが完了し、監視体制を整えた。  
また、製品に関する環境法令の変更等の窓口担当者を技術部にて決定した。

## ⑦ 環境側面に則した法律等の遵守状況

1) 「環境法規制等要求事項一覧及び遵守評価表」にてチェックを実施。

新たな法規制などについても適宜、情報を入手し対応している。

2) 東京都（全社）、北区（本社、東京工場）及び板橋区（サポートセンター）に提出する年度毎の調査表等は提出済。

## ⑧ 改善のための提案

環境経営目標の進捗を管理する「環境経営目標・活動計画確認評価表」を随時改訂し、活動チームリーダーには使用しやすく、また、事業所責任者及びトップマネジメントによるレビューが容易に行えるようにした。

## 9.2 全体評価に対してトップマネジメントによる全体評価と課題

電力や水等、消費が増加している項目があるが、これらは売りに上げに比例して大きくなったことが理由でもある。

ただし、東京工場一階のトイレ等は、地盤沈下の影響により汚水が流れにくくなっているの  
で、ここに限ってはトイレ使用後水を多めに流すよう指示している。

また、新型コロナの影響により、全社的に一日に数回窓を開けて換気を行っている。こう  
いった状況も電力や水の消費を増加させている原因である。

それ以外は、全般的にEA21に対する意識が高まってきていると感じる。

### ・指示事項

こういった会社施設の老朽化や感染症の流行による苦労はあるが、環境配慮を行いつつ目標  
到達に向けて日々の努力を期待する。

以上：作成者 事務局 根岸 靖博